

# 王者対決で貝沼をTKOで下した佐久間、「次の防衛戦は立嶋とでしよう」



▲TKO勝ちを宣せられ、ガッツポーズで観客にアピールする佐久間。王者となり、エースの資格も出てきた。

▼3分5回戦(試合開始)  
 ■日本選手 佐久間 勝  
 ■海外選手 トニー・マクニ  
**佐久間晋哉 (TKO4回 1分29秒)**  
 貝沼慶太

▲「貝沼の」右ハイは強えなと思って警戒した」という佐久間、逆に貝沼はこの右ハイに活路を見出したかったが、

■参考記録

	1R	2R	3R
ジャック・石川浩次	10:10	10:10	10:10
ジャック・藤嶋泰成	10:10	10:10	10:10
ジャック・サミー中村	10:10	10:10	10:10



▶ドクターズストップがかかり、自コーナーに引ける貝沼の顔にはかなりの血で染められていた。



▶腕では負けていないものの、打ち合いになると、どうしてもパワーで劣る貝沼。佐久間のキレのあるパンチで貝沼は左目をカットされてしまった。

試合は、TKOで決着がつくまで互いに拮抗し、目の難せない展開が続いた。初回から積極的に前に出て蹴りを放つ貝沼に対し、佐久間は前蹴り、ローで様子を窺う。貝沼の右ハイが佐久間の顔をかすめるが、身長差、パワーの差もあり決定打にはならない。佐久間は下がりながらもワンツーからの左ミドル、左ミドルからのワンツーで辛うじてポイントを維持。

明確なポイント差のないまま、4回に入る。それまでと同じように前に出てきた貝沼に、佐久間がヒジを放つと貝沼の左目に大きなコブができた。佐久間の数度のヒジでそのコブが裂け流血したため、ドクターは試合を止めた。



▲ナンポイントンは決め手はないものの、ヒジとさせポイント奪い、大谷を完封した。

▼3分5回戦・フェルター級  
 ■日本選手 大谷 健  
 ■海外選手 ナンボクジ  
**リック・ネボウ・ヌーサダ (判定) 大谷 健**  
 大谷 健

王者対決をクリアした今、佐久間の胸中にあるのは立嶋とのタイトルマッチだ。前回、王座決定トーナメントで立嶋と対戦し、ダウンを奪って判定勝ちを収めているが、マスコミの立嶋戦での扱いが、勝った佐久間、ではなく、負けた立嶋、に偏っていたことかなり苛立っていた。再戦した上で、キッチリ評価されたい、という思いがあるのだろう。

確かに立嶋を降し、王者となった佐久間が身に付けてきた自信に比例するように、会場での声援も増えてきている。だが、立嶋にはそのカリスマ性に加え、数えるほどしか観客のいなかったキックの興行を満員にしてきた歴史がある。それでも佐久間自身が納得のいく評価を手にするために、同団体、同階級である以上立嶋を避けることはできない。佐久間は立嶋を超えることができるだろうか。

(M)